

お待たせしました! 第5弾車両をこっそり紹介!

DEJQ TRAIN
VERSUS™

**デジQトレイン
通信-No.4**

© 2003 KONAMI

text: RMM/photo: 羽田 洋 (特記以外)
取材協力: コナミ株式会社

すでにお知らせした通り、コナミ・デジQトレインの第5弾車両は今をときめくJR九州の個性派特急たちだ。787系つばめ、883系ソニック、885系かもめQ種が一挙に登場。いずれも斬新なフォルムとカラーリングでファンのみならず人気の高い車両だ。それだけに製品化には並々ならぬ苦労があったようだが、さすがに造形に定評があるデジQトレイン、実車の印象をジャストミートで捉えた出来栄。そしてさらに、初の私鉄車両となる西武鉄道1000系ニューレッドアローも、いよいよ塗装サンプルが姿を現わした。合わせてじっくりと観たいだろう。

JR九州で活躍する個性的な車両たちは、少くあっても一言いふをするなら鉄道の最先端を体現する存在として、今や全国的に認知されていると言える。九州新幹線開業を控えてますます意気盛んなJR九州だが、その主力となって働く3種の特急車両がデジQトレインに登場した。

787系つばめは1992(平成4)年、鹿児島本線の特急列車のスピードアップとアコモデーション改善を目的にデビュー。JR九州発足後、783系に続いて新製された特急用車両で、もちろん新時代の九州の鉄道をおいにアピールする使命を負っていた。そのため外装・内装とも趣向を凝らした

▲デジQトレイン第5弾車両が勢揃い。黄空の下、JR九州が誇る個性派特急車両たちが集結。JR九州承認済

意匠で登場し、あとに続くJR九州の個性派特急群の先陣を切った記念すべき車両だ。

883系ソニックは1995(平成7)年にデビュー。特御付き振り子機構を搭載することで、曲線通過の速度を上げることができ、スピードアップに大きく貢献した。ブルーに塗られた精悍な前頭部のデザインや、側面リブ付の無塗装ステンレス鋼製車体など、787系にも増して強烈な個性を感じさせる。博多〜大分間の特急(ソニック)で活躍中だ。

885系かもめは2000(平成12)年、博多〜長崎間を結ぶ特急(かもめ)用としてデビュー。転じて優待な流線型ボディを採用したデザインは、純白の塗装とも相まって高い人気を博した。もちろん制御付き振り子機構を備え、特に曲線の多い長崎本線で威力を発揮している。

さてデジQトレインになったJR九州の特急群を見てみよう。それぞれに特徴ある形状、そして色の再現にあたってはJR九州との綿密な打ち合わせを重ねたこと、さすが的確な印象把握に成功している。たとえば885系の車体の白にしても、ちょっとした色味の変化で印象が異なってしまう難しい色と言えるが、まさにこれだ! 1...という色をよく出しているのではないかな。

コナミ・デジQトレインの第5弾車両・JR九州の特急3兄弟の発売は9月25日だ。

西武鉄道1000系も!

こちらはデジQトレイン初の私鉄車種となる西武鉄道1000系ニューレッドアロー。先行試作サンプルでは違和感のあった塗色も改められて、いよいよ実車のイメージがはっきり掴んだ迫力の出来栄となった。発売日は未定だが10月予定。価格3,800円。



▲西武鉄道1000系NRAの最終サンプル。西武鉄道商品化検討済

複線高架レールに駅も登場。

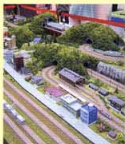
すでにお知らせした複線レールと複線高架レールがいよいよ8月28日に発売される。さらに複線高架用対向式ホームセットも同時発売されるというニュースが飛び込んできた。確かに高架エンドレスだけでは試験済みといった、駅が欲しい人は人権。運転ももっと楽しくなること請け合いの強力アイテムだ。



▲複線高架用対向式ホームの全長。複線高架レール基本セットと組み合わせて使用する。8月28日の発売。価格43,980円。

国際鉄道模型コンベンションにデジQトレイン大いアウト登場

本誌発売直後の8月22〜24日に開催される国際鉄道模型コンベンション(JAM)に出展予定のコナミブースには、デジQトレインの新製品がスラリと展示される他、特製の大いアウトも出現すること。お見逃しなく、複線と高架アイテムの先行販売も行なわれるゾ!



▲見よ、この迫力。3次曲面が連続する難しいフォルムをよく再現した。車がプロトタイプだ。



▲883系ソニックの面構え。前面ガイエローの4次曲面がプロトタイプだ。



▲車体側面の標記もシャープに再現。一段と魅力ある仕上がりになっている。